



こーひーぶれいく

挑戦, 「ツール・ド・ラ・フランス」

二ツ川 章二

Futatsukawa Shoji

2019年5月、「昨年からロードバイクを始めた。」と話をしたら、山形大の門叶先生から上市市で「かみのやまツール・ド・ラ・フランス大会」が開催されるということをお聞きした。ライダーの憧れ「ツール・ド・フランス」と一字違いの「ツール・ド・ラ・フランス」のネーミングに惹かれ、「競技・レースではありません」というのと、何よりも芳醇な香りと甘味なラフランスが食べ放題ということでロード大会に初めて挑戦することとした。

前夜祭では、優良農家によるラフランス品評大会に参加でき、同じラフランスといえども食べ比べると香りも味も違うことがよく分かった。翌日の本番が気になりながらも、上山ワインと山形地酒を十分に堪能した。

11月10日(日)、少し寒いものの天候は晴れ。参加したロングコース(60km)は参加者が620人、全体で約1,000人が参加した。ロング参加の出発時間が近づいたためスタート地点に行くと既に色とりどりのライディングスーツを着た参加者が広場をぐるりと取り巻いていた。先頭が出発したのが8時10分、事故防止のため順次スタートし、最後尾近くでのスタートは8時30分ごろとなっていた。

最初は田園の中を穏やかに走り、5kmほど行くと急激な登りが始まった。ヒルクライムかと思うような登りは日頃平坦な荒川サイクリングロードしか走っていない身には堪えた。急激な登りは3km程度で終了。約15km地点で第1休憩所に到着。水分補給とともに、ラフランスと山形名物「こんにゃく団子」がふるまわれた。ラフランスは皮付きと皮無し、皮付きも食感が良く、疲れた体には食べやすかった。

そこからの10kmは急激ではないがすべてが登



大会オリジナルジャージ

り。パンフレットには「起伏にとんだロードでかみのやまの雄大な自然が楽しめる」と書いてあったのにとおいつつ頂点までひたすら登り、折り返し点からの下りの10kmはジェットコースター。よくこんなところを登ってきたものだと自分に感心しながら下った。下りきって田園の中を少し走ると第2休憩所。ここでも水分補給とラフランス、糖分補給のためにラフランスの飴もふるまわれた。

ここからの10kmは起伏のあるコースを本日の最高地点まで登りきる。最高地点では暖かい麦茶とスポーツドリンクで水分補給、当然ながらラフランスも食した。ここの折り返し点からもジェットコースター。九折のカーブはブレーキを使わないと恐ろしかった。最後の約15kmは、市民もめったに行かないという生居川ダムコース。短いながらも本日の一番の急激な登り。最後にこれを走らせるのかと憤りながら登った頂点で、ボランティアの「よく頑張った」の一言に救われた。ダムを渡りきると最後の第4休憩所。水分補給と最後のラフランスをたくさんいただいた。

ここから緩やかに下り、田園の中を走って、休憩を含めた約3時間でスタート地点に戻ってきた。なんと、ゴール地点ではさらにラフランスがふるまわれ、1年分のラフランスを食べた思いがした。

最後にふるまわれた山形名物の「いも煮」とおにぎり腹ごしらえをし、入浴券でかみのやまの温泉に入って満足感たっぷり。もし、ワレもと思われる方がいらっしゃれば、次はご一緒に参加しませんか。

((公社)日本アイソトープ協会)